

2011年

島根県立松江北高等学校図書部発行 12月号

2011.12.20



らびらりい

高 December



図書委員による図書紹介

◎期末試験最終日12月2日(金)学園通りの今井書店で、1・2年の図書委員が、読んでみたい本を見計らい選書しました。今月と来月の2回にわたり、その紹介を行います。読書の参考にして下さい。

柴村 仁 『ブシュケの涙』
(メディアワークス)
23R 大谷香奈子

ある夏休み、一人の少女が校舎から飛び降りて自殺した。これは単なる自殺なのか？それとも…。この謎を探るため、彼女が飛び降りる瞬間を目撃した榎戸川と、何を考えているかわからない「変人」由良の二人が動き出した。次々に明らかにされる衝撃事実に驚かされます。ぜひ読んでみてください。

よしもとばなな 『スイート・ヒアアフター』 (幻冬舎)
26R 原田季美香

とある女性の、臨死体験とその後の生活を描いた、現実味のないリアルな話です。生死という重みのあるテーマを扱っていますが、答えを求めるようなものではなく、こういふかたち、こういふ考え方もあるというように、ひどく曖昧で漠然とした内容です。美しい情景とともに気づけば貢が遊んでいる、よしもとばななさんならではの世界が待っています。「スイート・ヒアアフター」あなたの価値観はどのように揺らぐでしょうか。

瀧本哲史 『僕は君たちに武器を配りたい』 (講談社)

この本は、今の日本社会を生き抜く知恵や知識を学び取ることが出来ます。これから日本社会に旅立つ人が日本社会の冷たい現状に立ち向かう、耐える技術を「ゲリラ戦」と捉えて、社会の問題点、改善点を挙げて筆者なりに説明しています。また、これまでの社会にとらわれすぎない生き方をする方法についても学ぶことができ、今後の人生を変化させる可能性も秘めています。ぜひ一度手にとってみてください。

向野幾世 『お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい』 (扶桑社)
11R 和田晴菜

見開きに書いてある「ごめんなさいねおかあさん」と呼びかける、詩は、生まれた時から母に抱かれ背負われてきた脳性マヒの人が、世間の目を払いのけて育ててくれた、強いお母さんへの感謝の気持ちを綴った詩でした。不自由な兄にやさしい思いやりを見せる弟や、温かい家族や先生に囲まれ15年間を精一杯生きた物語です。

十川ゆかり 『この世で一番大切な日 心温まる31の誕生日ストーリー』 (サンクチュアリー出版)
26R 西谷 萌

一生忘れられない誕生日を経験したことはありますか？年に一度、誰もが持っている記念日、それが誕生日です。この本には様々な人の様々な心温まるバースデイストーリーが詰まっています。一つ一つの話が短いので、読みやすくあつという間に終わってしまいます。ハンカチを手を持ってお読み下さい。

那須正幹 『ズッコケ中年三人組 age45』 (ポプラ社)
12R 大津和樹

あの『ズッコケ少年三人組』が、数十年の時を経て、「中年」に成って戻ってきた！皆さんご存じ、ハチベエ、ハカセ、モーちゃん。の身体は大きくなって、家庭まで持ちちゃうほど、年を取ってしまいました。

しかし、「中年」になっても三人組の心は「少年」のまま変わらず、何だか『ズッコケ少年三人組』を読んでいる気持ちになりました。『ズッコケ』を読んだことがない人にもぜひ読んでほしいです。

落合博満 『采配』 (ダイヤモンド社)
21R 寺西秀聖

この本は今シーズンまでプロ野球チームの中ドラゴンズの監督をしていた、元プロ野球選手の落合博満さんが書かれた本です。本の内容は、「勝利を引き寄せる66の言葉」として、著者がプロ野球選手として生活した体験をもとに、どうすれば成功するのか等を、ビジネスマンに置き換えて書かれています。野球についての内容もあるので、野球に興味がある人にはお勧めの本です。

大川隆法 『宇宙からのメッセージ』 (幸福の科学)
16R 相浦真人

実際に存在している宇宙人との対話を主に書かれている本です。もちろん宇宙人の存在を信じていない人もいますが、この本を読んだら多少の実感はわくと思います。少々理解できない言葉もあるとは思いますが、宇宙人について興味のある方などにはお勧めの本です。

人間人間 『バカが全裸でやってくる』 (アスキーメディアワークス)

18R 浅井太郎

バカが全裸でやってくる。そのバカが女である思春期特有の期待を見事に打ち砕かれた僕はしぶしぶ本を読み始めた。小説家を目指すがなかなかかなれない僕のもとへバカがやって来て(勿論全裸で)、それをきっかけにして物語は始まる。人が生き様をみずみずしく、そして生き生きと描いているのがこの本の見所である。決してバカの肉体美についてまるごと一ページ使うような小説ではないので安心して読んで欲しい。

沢村 纈 『十方暮の町』 (角川書店)
14R 犬山雄太

主人公和喜は、自分の町で起きている「神隠し」が「十方暮」(じっぽうぐれ)と呼ばれる魔の時期のためだということを知り、神隠しを防ごうと仲間達と行動を始める。

現代の都会の町で起こる「神隠し」というギャップも面白いですが、それを防ごうと一生懸命奔走する主人公達を見ると、勇気が湧いてきます。一度読み出すと先が気になって、ついつい読み進めてしまうという所も魅力だと思います。

小宮山勝司 『キノコの魅力と不思議』 (ソフトバンク)
27R 青山雄亮

キノコについての詳しい知識がつかます。詳しいというのは毒キノコの味などもたまに載っていて面白い、ということです。また、毒キノコは有毒、と書いてあり、これは万が一食糧がなくなったらキノコ狩りに行ったときも毒キノコを食べて死ぬ、という事態を防ぐことができる、ということの意味しています。まあ、とにかく里山やキノコに少しでも興味のある人は読んでみる価値アリですので、ぜひどうぞ。

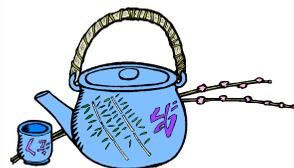


図書紹介 (続き)

時雨沢恵一 『お茶が運ばれてくるまでに』 (アスキーメディアワークス)

21R 今岡智行

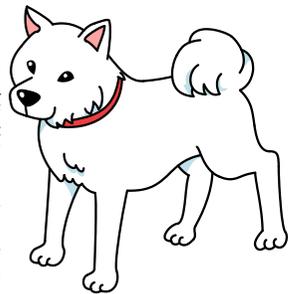
ページ数も少なく、字数も少なく、とっても早く読めてしまう本だと思うかもしれませんが、なら読んでみてください。思ったより、時間がかかるのではないのでしょうか。なぜなら普段あまり意識しない方面から見た自分について、よくよく考えさせられるからです。見方一つ変えるだけで、やる気が出てきたり、自分がどんな性格でも、「これでいいんだ」と思わせてくれると思います。大事なことがたとえて書かれているので、よく考えて読んでみてください。📖📖📖



岩貞るみこ 『ベイリー、大好き』 (小学館)

15R 小豆沢美可

ある小児病院に、ベイリーという名のセラピードッグがいます。小児病院には、重い病気を抱えた子ども達がたくさんいます。病気のせいで笑わなくなった子供、治療をいやがる子供、手術を怖がる子供がいます。でもベイリーのおかげで笑わなかった子供が笑った、ベイリーに勇気づけられて、治療や手術を頑張れるようになった。この本は小児病院の子供達とベイリーの、読んで私達も勇気づけられる本です。ぜひ読んでみてください。📖📖



三浦しをん 『舟を編む』 (光文社)

13R 加藤虹帆

「辞書は、言葉の海を渡る舟だ。」この本は、辞書編集部が次々と起こる問題を対処し、『大渡海』という辞書を作るという物語です。誰からも「マジメ」と呼ばれる変人や熱中することは格好悪いと思っている「チャラ男」、女性ファッション誌編集部から異動になった頑張る女性など、個性的な登場人物たちが、辞書の内容はもちろん、文字のサイズ、本の装飾、はたまた紙の質感にもこだわっていくなかで、様々なことを経験して辞書を作り上げます。



●チョット宿題を…

●最近ある研究会で「とても」と「かなり」はどう違うのかという議論が盛んです。一見同じように見えますが、よくよく観察してみると、ズレている所もかなりあるようです。では問題です。「準備」と「用意」はどうでしょう？同じですか？確かに「旅行の準備をする」とも「旅行の用意をする」とも言えますね。でも「期末試験は準備不足だった」とは言えますが、「用意不足だった」とは言いませんね。「競技の準備運動」とは言っても「用意運動」とは言いません。一方、運動会で「用意ドン」とスタートしますが、「準備ドン」とは言いませんね。誘拐事件で「身代金を1億円用意しろ」とは言いますが「準備しろ」とは言いません。その昔、「最近」と「近ごろ」の違いが、英語のrecentlyとlatelyにも当てはまるということを発表しました。言葉の世界にはこんな面白さがあるんですよ。図書館には大野晋『日本語練習帳』(岩波新書)という知的興奮が味わえる本がありますよ。読んでみましょう。(八幡)

手作りPOP大会優勝者決定!



▲読書週間に行った「手作りPOP大会」の優勝者は、26R原田季美香さんに決定。先日、浅井太郎図書委員長より表彰が行われた。上はその模様。

★読書感想文コンクール北高生V3達成!



「第57回青少年読書感想文コンクール」の県審査が公表され、北高の生徒が3年連続で最優秀賞(県1位)を獲得した。



【課題読書部門】

最優秀賞…26R 飯塚 真由「未来を見つめて」

優良賞 …14R 福島 葉菜「マルカの通った道とは」

【自由読書部門】

優秀賞 …27R 井上 真子「『崖っぷちに立つあなたへ』を読んで」



なお、飯塚さんと井上さんの作品は、全国審査に出品中。12月22日付けの『毎日新聞』に作品が掲載される予定である。